

〇本市の2060年における人口の将来展望を示した富山市人口ビジョン（R元年度改訂）について、直近の人口動態と市民アンケートによる結婚、出産、進学、就職等に関する意識を分析し、改訂する。

現行の人口ビジョン (2015～2060年の中長期的展望)

富山市の人口推移

●総人口は減少局面へ突入

- 合併前の旧市町村を合わせた総人口は1950年に30万人を、1985年に40万人を超えた。
- 1990年頃からは人口の増加傾向が緩やかになり、2000年頃からはほぼ横ばいで推移していたが、国勢調査ベースでは2010年をピークに、2015年からは減少に転じている
- 国勢調査ベースの総人口
2010(H22)年:421,953人(ピーク)⇒2020(R2):413,938人

●自然動態

- 2004年までは、出生数が死亡数を上回る「自然増」、2005年以降は出生数より死亡数が上回る「自然減」
- 「自然減」に転じて以降は、出生数と死亡数の差は大きくなる一方で、2017年には年間の出生数より死亡数が1,646人超過(2022年:2,778人超過)
- 少子高齢化の進行とともに、今後人口の自然減少が一層強まっていく見通し

●社会動態

- 2003年以降は転入者数が転出者数を上回る年が多く、2007年と2013年を除いて転入超過
- 転入者数及び転出者数の実数は2014年まで減少傾向にあったが、近年は増加傾向になっている。(2023年12月末時点で、(2021年を除く)転入超過の傾向が続いている)

中長期的展望(2015年～2060年)

●目指すべき将来の展望

2060年に人口34.5万人程度(目標)

- 出生率の更なる向上
(富山市民の希望出生率である1.88を目標)
- 人口社会増の維持
- 50年前と同等の人口水準を維持

「第2期」総合戦略
(2020～2024年度の5年間)

1. 現行ビジョンと直近の人口動態を比較しながら人口の状況进行分析
2. 市民アンケートから結婚、出産、進学、仕事等に関する意識を分析

1. 現行の人口ビジョン（R元年度改訂）と将来人口推計（R6年度改訂）の比較では、令和7年までの減少が大きく、2060年には2.7万人となる。
また、死亡数が出生数を上回る「自然減」が加速的に進んでいる。
2. アンケートによる市民の希望出生率【1.88 → 1.74】
※R4年度出生率 1.45

直近の人口動態等の数値と市民希望出生率を用い、改めて推計を行い、新たな人口ビジョンに定める目標人口を定める。

	ケース1 (本市将来人口推計)	ケース2 (国同等)	ケース3 (市民希望出生率 回帰分析)
実施概要	出生率は1.41～1.51程度で推移 (国立社会保障・人口問題研究所推計の推計値をもとに算出)	出生率を国の示す人口置換水準に準拠 →出生率は、2.07まで上昇	当面の間、市民希望出生率1.74を、長期的には、人口置換水準2.07を目指す →出生率は、2.07まで上昇
	純移動率は、本市将来人口推計と同じ		純移動率は、女性の若年層における移動を均衡
基準人口	令和2年(2020年) 国勢調査		
推計年次	令和7年(2025年)～令和52年(2070年)⇒5年毎に推計		
出生性比	国立社会保障・人口問題研究所推計値(富山市値)		
生残率	国立社会保障・人口問題研究所推計値(富山市値)		
純移動率	国立社会保障・人口問題研究所推計値(富山市値)		R7年→R12年(2025年→2030年)以降の女性の10～14歳→15～19歳、15～19歳→20～24歳の純移動率を0と仮定
合計特殊出生率	令和2年(2020年)の本市出生率1.48と全国出生率実績値1.3298の格差を求め、国立社会保障・人口問題研究所推計の推計値に乘じる	令和22年(2040年)までに人口置換水準の2.07に上昇 ・その後変化しないものとして推計	・令和22年(2040年)までに市民希望出生率の1.74に上昇 ・令和42年(2060年)までに人口置換水準の2.07に上昇 ・その後変化しないものとして推計

目指すべき人口の水準として、ケース3を採用

目指すべき人口の展望 (2025年～2070年)

2040(R22)年
目標人口37万人

2070(R52)年
目標人口32万人

2040年 1.74
(市民希望出生率)

2060年 2.07
(人口置換水準)

※社会増を維持しつつ、
長期的には自然増を実現する必要がある

2100(R82)年以降も
人口30万人を維持

「第3期」総合戦略
(2025～2029年度の5年間)